



今月の案内人
山崎町 山崎秀健さん



★保科正直邸址
(山崎町)



写真(下)は正直邸跡地の正法寺境内。遺構は発見できないが、周囲より切岸状に1～2メートル高くなっている。



今からおおよそ400年前。ここ、山崎町の正法寺の辺りには、保科正直の屋敷があったといわれています。

正直は、もともと信濃の出身で武田氏に属していた武将です。武田氏が滅ばされた後に、徳川家康の配下となり、天正12年(1584年)に家康の妹である多劫姫を妻に迎えました。この地に屋敷を構えていたのは、そのころからといわれています。

屋敷のできた時期は、小牧・長久手の戦いの直後であり、徳川方は敵の反撃に備え、領内の守備を固める必要がありました。屋敷があったといわれているこの辺りは、周りより小高い丘になっており、天然の砦のような地形をしています。地理的にも徳川家の本拠岡崎城に近いこの土地は重要な拠点だった

のではないでしょう。その後、天正18年(1590年)に家康は関東へ移封となり、正直もそれに伴ってこの地を去っています。

さて、この保科正直の保科家には余談があります。正直の子正光は江戸時代に入り大名となり、將軍徳川秀忠の子幸松を養子としました。幸松は後の名を保科正之といい、その家系は幕末の戊辰戦争で有名な会津松平家へとつながっていきます。

以前、この会津松平家の子孫にあたる人が、小学生か中学生くらいのお子さんを伴って、ここを訪ねてくれたことがあります。それは「先祖である正直はここに滞在していたんだよ」とお子さんに自分の家系のルーツを伝えるためだったからでしょうか。

その18 保科正直邸址

